瀬戸川などで水中のリン減少
浄化チャレンジ月間結果発表

芦田川環境マネジメントC

07年から始め今回で8回目

芦田川の水環境改善を目指す官民ネットワーク「芦田川環境マネジメントセンター＝AEMC」（事務局＝福山市西町2−10−1・エフエムふくやま内、電090・2381・6619、担当＝川嶋さんか原さん＝直通）は、昨年11月に実施した「家庭で出来る水質浄化の取り組み」で流域住民に呼びかける「河川浄化チャレンジ月間」（財団法人「義倉」助成事業）の結果を発表した。

それによると、BOD（水中の汚れの量）に関して変化はなかったが、T−P（水中のリンの量）は、瀬戸川流域では20％、高屋川流域では4％それぞれ減少するなど、一定の削減効果が確認された。

取り組み内容は①排水口にネットをかけて調理くずや食べ残しを流さない②汚れのひどい鍋、食器類は、ふき取ってから洗う③食用油は直接流さず、紙にしみ込ませたり、固めたりして捨てる④食器類を洗う時に洗剤の使用量を減らす⑤洗濯の時に洗剤の適量使用を心がける―の5項目だった。

「家庭で出来る水質浄化の取り組み」は2007年からスタートし、通算で8回目となる。今年度は瀬戸学区・駅家学区・津之郷小学校・赤坂小学校・御野小学校・中条小学校・服部小学校・宜山小学校・常金丸小学校・駅家西小学校・駅家小学校・御幸小学校及び流域の3市民団体が取り組んだ。事後のアンケートでは、「キャンペーンによりあらためてやる気が起きた」「水質浄化への意識が高まった」などの意見が寄せられた。